

## リーダーシップについて考える

リーダーシップとは、人々に自信を与える人格のことである。

ジョン・C・マクスウェル

ジョン・C・マクスウェル(1947年～)は、「リーダーシップの世界的権威、『世界一のメンター』として知られる」人物です。(ダイヤモンド社『人の上に立つ』ために大切なこと」より引用)今回は、同書から一部を引用しつつ、リーダーシップについて考えていきたいと思います。

リーダーシップと聞くと、自分は、そのような役職に就いていないので関係ないと思われる方がいるかもしれません。リーダーシップについては、組織において、一定の役職に就いている方々にとっては、必然的なものですが、はたしてそれ以外の方々には関係ないものでしょうか。私は決してそのようには思いません。というのも、私の経験上、生き活きとしている組織には、リーダーのほかにもリーダーシップをとることができる職員が必ず複数いたように思うからです。また、例えば、会議の場などで、積極的に発言をして、議論をリードすることなども、ある面でリーダーシップといえますし、こうしたことは、組織の活性化だけでなく、自己の能力開発や自己実現の観点等からもとても重要なことだと考えられるからです。こうしたことから、リーダーシップは、組織に身を置く者にとっては、多かれ少なかれ関わりのある事柄であると思われれます。

それでは、リーダーシップとはどのようなもので、どうすれば身につくのでしょうか。もちろん一朝一夕に身につくものではないでしょうが、同書には、様々なヒントが掲載されています。例えば、「才能は天賦のものだが、人格は選択できる」とあります。そして「人生にはどうすることもできないことが多々ある。まず、親を選べない。生まれ育つ場所や環境も選べない。才能や知能指数も選べない。しかし、人格は選べる。われわれは何かを選択するたびに、人格を作り上げているのだ。困難な状況から逃れるか、それを打開するか。真実をねじ曲げるか、その重みに耐えて立つか。楽をして金儲けをしようとするか、まっとうな対価を払うか。あなたが今日どのように生き、どのように選択をするかがあなたの人格を作り上げていく」と続きます。

この文章を読んで、かつて神奈川県企業庁で研修担当をしていた時に、リーダー層の研修でお呼びした講師の方から、「リーダーシップというのは、結局その人の人柄だったり、人格だったり、それが基本なのです」と言われたことを思い出しました。当時はまだ若かったので、リーダーシップというと人を引っ張る何か特別な力と思い込んでいましたので、少し拍子抜けした記憶がありますが、今にして思うとマクスウェルと同趣旨のことを仰っていたのだと思います。恥ずかしながら、私が当時考えていたリーダーシップは、今でいう「カリスマ」のようなものだったのかもしれません。

「カリスマ」のような特殊な場合を除き、本来のリーダーシップとは、その人の生き様を反映した「人格」ということなのでしょう。同書には「部下は人格に難があると感じるリーダーを信頼せず、やがてついていくことをやめてしまう」とあります。冒頭の箴言にもあるように、「人々に自信を与える人格」を目指して日々精進したいと思います。

(敬称略)

令和6(2024)年7月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス  
理事長 松井 聡 明